

令和4年11月18日  
男女共同参画センター

1 日時 11月11日(金) 19:00~21:00

2 出席者 委員11名(遠藤壽子、岡田治美、浅木直美、佐々木茂文、佐藤沙耶、  
倉持若葉、長尾清美、木村美由紀、新橋嗣男、望月覚、國武智子)  
事務局3名 ※欠席委員(2名)、傍聴者(なし)

### 3 あいさつ

#### (1) 白石(町民活動課課長)

- 本日の議題は5つありますが、(2)の小中学生意識調査がメインになると思います。
- 意識調査アンケートは本年7月に実施し、9月~10月に集計と分析を行い、その結果をもって報告書の素案を事務局で作成しました。
- 報告書の素案は、今月の頭に委員の皆様にお配りし、本日を迎えるわけでございます。
- 本日は、本件について、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。よろしくお願ひいたします。

#### (2) 遠藤会長

- お忙しい中、夜にお集まりいただきありがとうございます。
- 本日は、議題がけっこうありますので、なるべく早めに終われるよう進行して行きたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

4 内容 ※会議では、進行上(2)→(1)→(3)~(5)の順に議事を進めた。

#### (1) 令和4年度講座について

##### ①第2回 町内企業出前講座「ものづくりの楽しさを味わおう!!(～仕事も育児もどちらも大事～) 9/10(土)

- 当該講座は、JCOMの取材を受け、そのJCOMニュースの画像を入手したので、会議冒頭に放映した。
- 講座の内容はもとより、映像内容も良かったとの評であった。

##### ②第3回 「情報を正しく読み解く力をつけよう～暮らしに役立つメディア・リテラシー」 11/5(土)

- 事務局から、当該講座の周知等について委員各位から多大なる協力を得たこと、最終的には24名の参加を得て開催できたことについて報告があった。

##### ③第4回 「消費者トラブルを防ぐ!!～18歳になったら何が変わるの?～」

- 事務局から、資料1のとおり、12/3(土)に実施予定であり、既に参加者を募集し

ていること、現時点で申込者数は6名であることの報告があった。

- 申込者数が低調なことから、事務局から委員各位に、周知等の協力要請があった。
- なお、ポスター／チラシによる開催案内については、これまでの範囲（町の施設、広報あみ、あみメール、HP）に加え、町内の2大学、さらに、今回は特に霞ヶ浦高等学校にもポスター／チラシを持参し案内した旨の報告があった。

※高校では講座当日は授業があるため今回は対応が難しいとのことであったが、今後、高校生が対象範囲の講座については協力をいただけることになった。

#### ④第5回以降

- 事務局から、前回の会議で絞った3つのテーマ（防災、ストレス、異文化理解）について情報収集をしたこと、そのうち「異文化理解」については前回同様なかなか講座になりうる情報を得ることができなかつた旨の報告があった。

⇒以下の3項目を候補とし、そのうち、防災を第1候補としてさらに詰めた案を事務局が作成し、第4回協議会に示すこととなった。

⇒5回目講座に選定されないものでも、次年度の講座候補として行くこととし、引き続き情報収集して行くこととした。

#### <第5回以降に関連した討論>

- 過去に、大学生を含めた討論会形式の講座が、今回それは無理だったということか。  
→今回は提示できなかった。
- 勤務先の健康支援室を通じて県立医療大とリモートで話す機会があった。以前は見学交流したこともある。筑波大の先生の話も良いが、身近に2大学があるので、そこ話す機会はないか。
- 現場での交流はコロナ禍で困難だが、リモートなら可能かもしれない。リモートとなると準備は大変になるが。
- 大学にアプローチする場合は、総合窓口より、大学のサークル、研究室、団体といったところに直接アプローチしたほうがよい。
- 第2回講座のように、むずかしいことは抜きにして、みんなでワイワイやっている姿も男女共同参画の一つの形ではないか。
- 茨城大と県立医療大では分野が異なるが、男女共同参画をテーマにしているところはあるか。→県立医療大では性的暴力をテーマにしている研究室があり、授業もある。
- 何らかの形で町内2大学にアプローチしてほしい。

⇒大学にどのような先生がいるか調べてから、テーマに沿ったところにアプローチを試みる。その際、町と2大学が包括協定を結んでいることから、その一環で実施可能か検討する。

#### -防災-

- 事務局から、【防災1】日本赤十字社茨城支部、【防災2】千葉県西部防災センター、【防災3】防災科学技術研究所 の3か所について情報収集した結果の報告があっ

た。

- その結果、防災 2 と防災 3 は、「見学」が通常モードではないことなどから、今年度は困難と判断したが、防災 1 は、資料 2のとおり講習は実施可能と思われることから、第 5 回講座として第一候補にしたいとの提案がなされた。
- なお、実技が伴うこと、コロナ禍の状況がまた不透明になってきたこと、募集について厳しい状況が続いていることなどから、募集定員は従来の 30 名ではなく 20 名を想定していることもあわせて提案された。

⇒基本的には提案を了承するが、さらに詰めた案を事務局が作成し、第 4 回協議会に示すこととなった。

※なお、実施時期としては、令和 5 年 2 月を想定しているところ。

#### -ストレス-

- 事務局から、筑波大学大学院人間総合科学研究科産業精神医学・宇宙医学グループの専門家による講義が提案された。
- 上記専門家監修の別冊資料（メンタルヘルス セルフケアマニュアル）を回覧

⇒今年度の開催は日程的に困難なことから、次年度候補として引き続き情報収集に努めることとした。

#### -ワークライフバランス-

- 事務局から、資料 3の情報を入手したこと、内容が介護離職者防止や仕事と介護の両立の準備であること、対象者は比較的若い人になること、などの説明があった。
- 講座とするための障害として、謝礼が高いこと、対象者としての条件を満たす参加者を集めることが困難であると想定されることが挙げられた。
- 今後の見通しについては運営協議会の承認がいるとしてまだ返事をしておらず、民間/個人なので意向は伝える必要があるとのこと。

⇒若い人にとって良い話だと思うので、若い人がやる気があるなら協力するが。

大学で行う講座もあったが、介護する人は介護を受ける人がいるのでなかなか行けないといった声があった。仕事のことでいっぱい講座を受けたいものの日程が合わないことが多く、このようなことが人集めに支障をきたしているのではないかと。

⇒想定される障害を考えると、難しいと思われるとの判断が大勢のようであった。

#### (2) 小・中生意識調査について

- 事務局から、今後の工程表（案）を提示、説明した。  
なお、グラフ作成などは次回以降の作業としたい旨の説明であった。

⇒委員各位の了承を得た。併せて、作業の進捗状況により変更はあるものと理解いただいた。

- 中間報告書案について、最初から 1 問ずつ確認した。

#### 【調査目的等】

- 「調査目的」「調査内容」「調査方法」は前回調査報告書に合わせ、今回の状況部分を修正したものとなる。
  - 「実施人数」は、前回調査報告書では学校、学級別、男女別としていたが、今回は、「性別を答えていない人」がいるため、あえて学校、学級別とはしていない。
  - 性別について、①男と答えた人②女と答えた人③性別を答えていない人（「答えたくない」「わからない」「重複回答」「無回答」）に分かれる。今回、性別による考察を行う場合、③の比率が低いこと、前回調査との比較検討を行う（前回調査の回答選択肢は男子・女子のみであった）ことから、①及び②をもって行うこととする。調査前の事前協議の場でも、今回は①及び②をもって整理すること、③は「＜最後に＞」の記載において拾い上げるようにすると整理していた。
  - 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出している。したがって、各設問において、無回答者は基数に含めていない。なお、無回答者には、重複回答も含む。
- ⇒了。

#### 【問 1】

- ほぼ事実データの記載となっている。
  - 二世世代家族と一人っ子の割合増に着目している。
- ⇒了。

#### 【問 2】

- 自分の性への肯定感の高いものの、小学生より中学生、男子より女子が低いことに着目している。
  - 女子が前回調査時小 5 から今回中 2 になったなかで、どう変化したかにも着目している。
- ⇒了。

#### 【問 3】

- 小学生より中学生、男子より女子がよく言われることに着目している。
  - 問 3 か問 4 のスペースに「アンコンシャス・バイアス」の解説を入れる。
- ⇒了。

#### 【問 4】

- 最も多いのが「何とも思わない・気にしない」だが、「その通りだと思う」が減少していること、女子で「いやだと思う」が増加していることに着目している。
- ⇒了。

#### <問 3 及び問 4 に関連した討議>

- 問 3 は大人が子供に対して言っている状況（意識）を示す数字、一方、問 4 は大人の発言に対する子供の反応としての数字と言えるのではないか。
- 性差について言われることに対し、小／中／高で当然反応は異なるし、女子は男子より敏感であるとの認識について、数字からもわかりやすい。

⇒今回は今回として整理することです。

【問5】【問6】

- ・「男らしい」「女らしい」のイメージ上位が固定的である。
  - ・「男らしい＝頼りになる」というイメージは必ずしもポジティブなものではなく、「男のくせに〇〇もできないなんて頼りにならない」といったネガティブなアンコンシャス・バイアスを作り出す場合もあることを「あみっぺ」にセリフとして記載する。
- ⇒了。

<問5及び問6に関連した討議>

- ・「男らしい」「女らしい」のイメージ上位が固定的であることと、アンコンシャス・バイアスの在り方とどのように整理したらよいか。この設問の回答がどのようなになったらアンコンシャス・バイアスが解消されたと言えるようになるのか。
- ・「このようなイメージがあるから変えていこう」ということで良いのではないか。数字的にばらけると、変化が出てきたと捉えられるのではないか。
- ・3年ごとに実施するのは、意識がどう変わるかを見るためであり、その時その時の考え方が出てきて、現状を知ることになる。10回くらい重ねないと変化は見えにくいのではないか。阿見町の特徴（3世代家族が多め、住んでいるところで家族構成が異なる など）あたりも加味すると面白いものがでてくるのではないか。
- ・この設問の選択肢が、逆にバイアスを強めているのではないか。その他のところに、自分の意見として「男らしく／女らしくは関係ない」と書いた人がいるが、選択肢にはそれがない。小さい子はまだ合理的な考え方ができないので自分で選択肢を作ることができず、与えられた選択肢から選択しており、これがバイアスにつながるのではないか。

⇒今回は今回として整理することです。

【問7】

- ・前回調査と項目が変わったなかで、記載に矛盾や変なところはないか。※特に一人平均件数

⇒了。矛盾点等についてのこの場でコメントはなかったが、気づきがあれば後日でも連絡をいただくこととした。

【問8】

- ・「男女関係なく協力してやるのがよい」が圧倒的割合であることに着目している。
- ・その要因と思われるものの考察についてはいかがか。

⇒了。考察等についてのこの場でコメントはなかったが、気づきがあれば後日でも連絡をいただくこととした。

【問9】

- ・いずれも「協力してやるのがよい」が圧倒的だが、その中でも、小学生より中学生、男子より女子、特に中学生女子が9割を超えていることに着目している。

⇒了。

<問 7、問 8 及び問 9 と関連した討議>

- ・家事手伝い、子育てについて、男女に分けて調査しているが、男女に関係なく「ケアラー」というもの考えることも大事になってくるのではないか。
- ・家族環境で変わってくるが、家庭の中でどういうことをしているのか、介護の問題もあり、今後の課題として留めておく必要がある。

⇒今回は今回として整理することです。

【問 10】

- ・ほぼ事実データの記載となっている。
- ・前回調査報告書では上位 5 位(同じ順位に複数の場合もあり)の職業と人数/割合、5 人以上で相手の男子/女子にないものを載せているので、今回も同様に考えている。3 人以上で相手の男子/女子にないものも載せたほうが良いか。

⇒了。※ただし、「3 人以上」の件は結論に至っていない。

【問 11】

- ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、前回調査よりいずれも減っていることに着目している。
- ・小学生で「わからない」が増増したことが特筆され、考察を「あみっぺ」に記載したが、妥当か。

⇒了。

<問 11 と関連した討議>

- ・小学生の「わからない」が増増したことについては、結論は「男女差をあまり感じない結果」ではあるが、原因は以下のような事情が関係すると思われる。
- ・学校では、男女分けずに係を決めようと、先生が係名を工夫している。(例:「水やり係(女子のイメージになりやすい)」→「園芸係(男女差のイメージがない)、係名を会社名風にする) 現実に男女を分けている係がないので、子どもの認識とあっている。
- ・今後、この設問は止めるか、もしくは、設問内容(文章)について再考の余地があるのではないか。
- ・異性が苦手とすることを一方がカバーするといったことがなど、家庭でも学校でも変化してきているのではないか。

⇒今回は今回として整理することです。

【問 12 (1)】

- ・前回調査同様「平等」が圧倒的だが、中学生は前回より減少している。
- ・今回の中学生が小学生の時も数字は低く、この集団の特徴と考えたが、いかがか。

⇒了。

【問 12 (2)】【問 12 (3)】

- ・中学生女子に不平等感が強い要因を「あみっぺ」に記載したいが、どのように考察したらよいか。

⇒以下の討議を踏まえ、考察をもう少し検討する必要がある。

<問 12 (1) ~ (3) に関連した討議>

- ・必ずしも、不平等=悪い事ではないと思う。平等ではないと感じるだけで、男が得している女が得していると思うだけで、良くないという認識だけではないと思う。
- ・用語として「不平等」と「不公平」が混在している。「不平等」が平等ではないだけで、「不公平」は公平ではないので悪い事という印象である。平等に思っているかいないかの考察が男女共同参画の行先にイコールではない気がする。
- ・回答の際に、その時の状況に引っ張られると思う。平等ではないからといって自分にマイナスではない。だから、考察としてネガティブにとらえる必要がないのではないか。
- ・1/3 が平等ではないというのは多いと言えは多い。その理由が何かを把握することも課題になっていくのではないか。
- ・(1) は社会参加の意識、まとめる意識と考える、(2) (3) は共同作業であり男女関係ないという意識と考える。「やさしさ」は誰から誰に向かうかで抱くイメージが異なる。
- ・女子中学生が不平等に感じていることを前提に思ったことだが、中学生になると「もっと女らしくしなさい」と言われることのプレッシャーがあるからだと思う。

⇒考察をもう少し検討する必要がある。

【問 13 (1)】

- ・中学生は前回調査の小学生データと比較して集団の特徴を考察した。

⇒了。

【問 13 (2)】

- ・前回調査と比較して「聞いたことがない」が大幅に減少したことに着目している。

⇒了。

【問 13 (3)】

- ・初めての設問なので、ほぼ事実データの記載となっている。

⇒了。

<問 13 (1) ~ (3) と関連した討議>

- ・「男女共同参画社会」の用語の認知度が低いとしても、「デートDV」や「LGBT」といった具体的な用語の認知度が高まれば、結果として「男女共同参画社会」の向上につながるのではないか。
- ・「男女共同参画社会」は漠然として捉えにくいのではないか。それに対して、「デートDV」や「LGBT」は、情報社会において具体的に認識しやすいのではないか。

【問 14】

- ・前回調査と比較して「どちらかといえば反対」「反対」が増えたものの、男子に「どちらかといえば賛成」「賛成」が多く残っていることに着目している。

⇒了。

#### 【＜最後に＞】

- ・最終報告書への全員の記述を記載する方法について、小学生・中学生別にそれぞれ連番を付けて列記し、学校名や性別欄は設けない。

⇒了。

- ・抜粋して載せるコメントについてご意見はないか。
- ・なお、対象者には「性別を答えなかった人」も含まれる。

⇒会議の場で発言はなかった。関係者からの意見を引き続き待つこととし、最終報告書（案）作成の段階で確定することとした。

#### 《総合討議》

- ・このアンケートは今回で3回目だが、設問については第1回当時の方々が内容を揉んだ結果が今の形になっている。一つひとつでは「あれっ」と思うものも個人によってはあるだろうが、それではまとまらないので、「まあいいな」というところで設定している。
- ・設問自体が男女差をはっきりと浮き彫りにさせるようなものが多くあると感じる人もいる。例えば「男の人は外、女の人は内という考えはどうか」というのに対し、「それは良くない、というのが正解だ、今の考え方だ」というのがバイアスになっている面もあり、それがアンケートの特質だと考えれば仕方がないことだが。
- ・このようなことや、3回の推移を見て考えると、変化を捉え一定の考察ができたので「そろそろ潮時なのかな」、先々検討しても良いのではないかと思う。
- ・コロナ禍で世の中が大きく変わった。デジタル化が進み、職場はもとより、ここ2-3年で学校現場は大きく変わった。そのなかで男女共同参画が急速に進んだと感じている。男とか女とか言っている場合ではなく、多様性ということで、「男女共同参画」という言葉を中心に据えるとしても、+αが必要になる。
- ・知らない言葉が増え、時代がどんどん進み、取り残された感がある。ネット社会のもと、小中学生の方が多くの情報を得ているなか、このようなアンケートがきても熱心に回答していないかもしれない。
- ・この意識調査を継続するか否かの判断は委員に委ねられているものと思うので、各委員は考えておいていただきたい。

⇒今回は今回として整理することです。

#### (3) パネル展について

- ・事務局から、「女性に対する暴力をなくす運動パネル展」（11月16日から11月27日）を実施予定である旨の説明があった。

⇒了。

#### (4) センターだより第21号（12月16日発行予定）について

- ・事務局から、「12月16日発行を目指している」旨を説明した。



⇒了。※掲載内容については、事務局に一任いただくこととした。

(5) その他

①次回の会議について

12月16日(金) 19:00～ (阿見町中央公民館)

- (内容) ア. 小・中生意識調査の報告書(案)について検討  
イ. 第5回以降の講座について  
ウ. パネル展について  
エ. その他